



newcal
モビリティ
パッケージ

KEIKYU
京急電鉄

2024年10月28日
株式会社Luup
京浜急行電鉄株式会社

Luupと京急電鉄が連携協定を締結

ポート設置、沿線活性化施策実施やデータ連携等を通じて沿線価値の向上を目指します

株式会社Luup（本社：東京都千代田区、代表取締役CEO：岡井 大輝、以下「Luup」）と、京浜急行電鉄株式会社（本社：横浜市西区、取締役社長：川俣 幸宏、以下「京急電鉄」）は、2024年11月1日（金）付で、沿線価値の向上に向けた連携協定を締結することをお知らせいたします。

Luupは、“街じゅうを「駅前化」するインフラをつくる”をミッションに、電動マイクロモビリティのシェアリングサービス「LUUP」を展開しています。電動アシスト自転車や電動キックボードのみならず、電動・小型・一人乗りの電動マイクロモビリティを包括的に取り扱い、ファースト・ラストワンマイルの移動手段を確立し、全ての人が自由に移動できる未来を目指しています。

京急電鉄は、京急沿線エリアマネジメント構想「newcal（ニューカル）プロジェクト」の取り組みとして、さまざまなモビリティ事業者と地域特性に応じたモビリティ整備を実施する「newcalモビリティパッケージ」を展開し、駅を起点に沿線地域の回遊性向上や二次交通網の拡充を行ってきました。これまで駅周辺や沿線事業者と連携して100拠点以上のシェアモビリティ拠点を整備しており、2026年度までに150拠点を目指しています。

今回の連携協定締結を機に、両社は新たに京急鶴見中央5丁目マルチモビリティステーション・戸部駅前・京急南太田駅前マルチモビリティステーションの3か所にLUUPのポートを設置し、駅のモビリティハブ化の推進や移動データの分析などを実施いたします。

また、2024年11月17日（日）に開催される、よこはま都心部水上交通実行委員会主催の「よこはま運河チャレンジ2024」に合わせて、10月31日（木）から11月17日（日）まで「水辺の横浜に出かけようフェア」を地域連携で行い、イベント域内の回遊促進施策に協力いたします。

さらには、京急電鉄が展開する地域情報/MaaSサイト「newcal」内の経路検索機能では、新たにLUUPのポート情報のマップ画面への表示が搭載され、鉄道やバスだけではない、シームレスな移動環境の整備と情報の一元化を実現いたします。

今後もLuupと京急電鉄は、共同でポートの設置や利用データ・MaaS基盤整備での連携、沿線活性化施策の共同実施等を通じて、沿線の価値向上やまちづくりの推進に寄与してまいります。



1. 連携協定の内容・役割分担

(1) 協定締結日：2024年11月1日（金）

(2) 役割分担

Luup

イ. ポートの新規開設によるマイクロ交通網の整備

ロ. 京急電鉄が提供するポートに係る移動データの提供

京急電鉄

イ. 京急電鉄の保有する用地へのポート設置

ロ. 沿線地域のエリアマネジメント連携事業者や団体等との共同でのポート設置

両者

イ. 京急沿線で、キャンペーン実施を通じた電動マイクロモビリティ利用促進施策の共同開催

ロ. 両社のブランドを活用した共同プロモーション及びマーケティング活動の実施による本サービスの普及促進

2. 新規開設ポート

(1) 開設日：2024年11月8日（金）

(2) 場 所

イ. 京急鶴見中央5丁目マルチモビリティステーション

所在：横浜市鶴見区鶴見中央5丁目913番3、313番6（京急鶴見駅から徒歩5分）

停車可能台数：10台

ロ. 戸部駅前

所在：横浜市西区戸部本町265番、266番、267番の各一部（戸部駅から徒歩2分）

停車可能台数：30台

ハ. 京急南太田駅前マルチモビリティステーション

所在：横浜市南太田1丁目69番29、35の各一部（南太田駅から徒歩1分）

停車可能台数：7台

3. 「水辺の横浜に出かけようフェア」

(1) 会 期：2024年10月31日（木）から11月17日（日）

(2) 会 場：横浜都心部（関内・関外）の各エリア

(3) 主 催：関内関外都市交通ネットワーク

(4) 概 要：フェア期間中に横浜都心部各エリアで開催される魅力的なイベント（にぎわい）をシェアモビリティや水上交通などの利用促進や実証運行を通じた移動施策（回遊）でつなぐことで、回遊性の向上を目指します。

(5) ホームページ

NPO法人 Hamabridge 濱橋会

URL：<https://hamabridge.or.jp/>

よこはま運河チャレンジ2024 -newcal Project-京急沿線おでかけサービス

URL：<https://newcal.jp/yokohama/>

【株式会社Luupについて】

株式会社Luupは、電動・小型・一人乗りのマイクロモビリティを用いて、街じゅうを「駅前化」する新しいインフラづくりに取り組んでおり、現在、電動キックボードや電動アシスト自転車のシェアリングサービスを東京・大阪・横浜・京都・宇都宮・神戸・名古屋・広島・仙台・福岡中心に提供しています。マイクロモビリティの普及によるCO2削減と、ご高齢の方も乗ることができる新しいモビリティの導入も実現し、すべての人が安全・便利に移動できる持続可能な社会をつくります。

所在地：東京都千代田区神田佐久間町三丁目21番地24 AKIHABARA CENTRAL SQUARE 4階

代表者：岡井 大輝

創業：2018年7月

URL：<https://luup.sc/>

アプリダウンロードURL：<https://ride-your-city.luup.sc/Myjb/cfcdb04a>

※LUUPアプリは、iOS16以降、iPhone 8 以降（iPhone SE 第1世代を除く）、Android OS 10.0 以降の端末でお使いいただけます。

※表記について：会社名は「株式会社Luup」、サービス名は「LUUP」と表記しています。

【京浜急行電鉄株式会社について】

京浜急行電鉄株式会社は、グループ理念である「都市生活を支える事業を通して、新しい価値を創造し、社会の発展に貢献する」を使命として、社会課題、価値観の多様化に対し、「移動」と「まち創造」の両事業（プラットフォーム）が相互に価値を提供しあい、新しい価値を創出することで対応し、地域と京急グループの持続的な発展を目指しています。

所在地：神奈川県横浜市西区高島1丁目2番8号

取締役社長：川俣 幸宏

URL：<https://www.keikyu.co.jp/>

京急沿線エリアマネジメント構想「newcalプロジェクト」について

- (1) 開始日：2024年3月14日（木）
- (2) 名称：「newcal（ニューカル）プロジェクト」
- (3) 名称由来：「New」＋「Local」

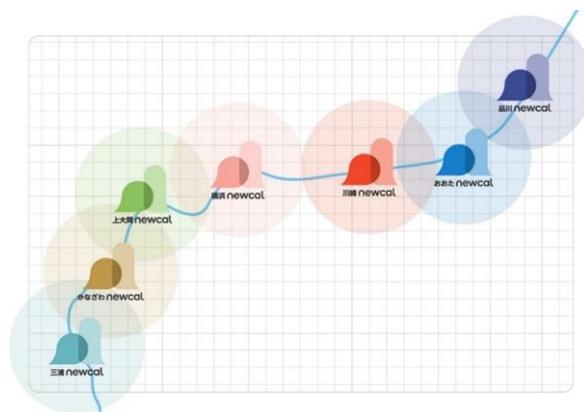
新しいローカル（Local）のあり方を地域の方々と一緒になって生み出し、その地域ならではの新しい魅力を発見（Newな発見）し、より多くの人に届けていく構想です。

「Local」のあり方が今後も注目される中、京急グループがその「新しいLocal」のあり方を、エリアマネジメントによって見出していく意思も込めています。

また、「ニューカル」という響きは、「new culture = カルチャー」を感じさせ、その地域ならではの新しい文化を地域の方とともに生み出していく想いも込めています。

(4) 目的

「沿線価値共創戦略」において重視する、地域との連携を具体化する4つの共創活動の「組織化」「地域拠点整備」「MaaS整備」「モビリティ整備」の推進を通じた将来像として、デジタル基盤とともに沿線地域が一体となったサービス「EaaS（ENSEN as a Service）」の構築を目指します。



【サービスに関するお問い合わせ先】

- 株式会社Luup

URL : <https://support.luup.sc/hc/ja/requests/new>

以 上